

第3回（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会会議録

日 時 平成30年7月10日（火）午後3時00分～
場 所 黒部市役所201・202会議室

会議次第

- 1 開 会
- 2 報告事項
 - (1) 第2回委員会会議録について
 - (2) 先進地視察実施報告について
 - (3) 第3・4回ワークショップの開催について
- 3 協議事項
 - (1) 管理運営計画について（確認事項）

はじめに		1. 計画経緯・現状など 2. 管理運営計画の構成（目次）
第1章	（仮称）くろべ市民交流センター 建設基本構想 基本コンセプトの確認	1. 設置目的の確認 2. 基本コンセプトの確認
第2章	（仮称）くろべ市民交流センター 管理運営計画 管理運営方針	1. 管理運営計画の目的 2. 管理運営方針
第3章	（仮称）くろべ市民交流センター 管理運営計画 事業運営方針	1. 施設全体の事業コンセプト 2. ①各施設の事業方針（図書館機能・施設全体） ②各施設の事業方針（子育て支援機能） ③各施設の事業方針（生涯学習機能） ④各施設の事業方針（市民活動支援機能） ⑤各施設の事業方針（ビジネス支援機能） 3. 他機関との連携 4. 商店街との連携

- (2) 管理運営計画について（提案事項）

第4章	事業内容	1. ①事業内容（図書館機能）
-----	------	-----------------

- (3) その他
 - ①策定委員会スケジュールについて
 - ②第2回U-18ワークショップについて
 - ③ニーズ調査の実施について

- 4 閉 会

.....

本日の出席委員 13名

藤田 公仁子 (富山大学地域連携推進機構)
堀内 國春 (富山県図書館協会)
上田 洋一 (黒部市図書館を愛する会)
橋爪 みち子 (黒部市合同読書会)
石川 幹夫 (黒部市公民館連絡協議会)
長谷川 悦子 (子育て支援活動実践者)
河田 稔 (黒部市自治振興会連絡協議会)
牧野 和子 (くろべ女性団体連絡協議会)
中野 高嗣 (黒部商工会議所)
菅野 智美 (黒部ワインコインプロジェクト実行委員会)
中尾 晃司 (公募委員)
新酒 さおり (公募委員)
国香 正稔 (黒部市教育長)

.....

本日の欠席委員 (1名)

能澤 雄二 (黒部市副市長)

.....

本日の出席アドバイザー 1名

伊東 直登 (松本大学図書館長・教授)

事務局

【教育委員会事務局】

長田 行正 (黒部市教育委員会事務局教育部長)
島崎 豊 (黒部市教育委員会事務局生涯学習課長)
川端 左起子 (黒部市立図書館長)
中嶋 ひとみ (黒部市立図書館主幹・館長補佐)
輿水 一紀 (黒部市教育委員会事務局生涯学習課主幹・生涯学習施設建設推進班長補佐)
宮崎 千夏 (黒部市生涯学習施設建設推進班係長)
内山 香織 (黒部市立図書館主査)
松澤 香陽子 (黒部市立図書館主任)

【関係部局】

魚谷 八寿裕 (黒部市総務課長)
廣木 敏之 (黒部市都市政策課長)

藤田 信 幸（黒部市こども支援課長）
高野 正 規（黒部市商工観光課長補佐）

【管理運営計画策定支援業務委託業者】

岡本 真（アカデミック・リソース・ガイド株式会社）
鎌倉 幸子（アカデミック・リソース・ガイド株式会社）

.....

開 会

○事務局 ご案内の時間となりましたので、ただ今から「第3回（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会」を開会させていただきます。

私は、黒部市教育委員会事務局生涯学習課長の島崎でございます。本日の進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日の委員会には、先般アドバイザーにご就任いただきました松本大学教授の伊東直登様にご出席いただいております。このあとご挨拶をいただく予定としております。

まず、会議の開催にあたり、（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会藤田委員長よりご挨拶をいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

.....

委員長挨拶

○委員長 みなさま、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。第3回目となりました。私、週末京都出張があったけど取りやめになりました。図書館と学習センターが一緒になりました大阪の茨木市が先日の地震で避難所になっております。今回の大雨でまた避難所となっています。

図書館と生涯学習系センターと一緒にあった施設は、そういうときに違った顔と違った役割を果たす機能があるところがございます。ですから何かがあったときに対応できるようなセンターでなければいけないと思いました。これからつくり上げていくものですのでいろいろな側面、いろいろなご意見をたまわりながら、黒部市民にとって身近なセンターであり、市民の書齋である図書館というところで作っていったらよいなと思っています。これから委員会を重ねてまいりますけれども、やはりみなさまのご意見が大切になってきます。言葉が宝物になってまいりますのでご協力の程、お願いします。今日は伊東先生が隣にいらっしゃるの心強いので、今日は心強いので、伊東先生にいっぱい助けていただこうかなと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局 どうもありがとうございました。続きまして、アドバイザーとしてご出席いただいております松本大学の伊東直登様に就任のご挨拶をいただきたく存じます。伊東様、よろしくお願いいたします。

.....

アドバイザー挨拶

○アドバイザーみなさんこんにちは。いま、ご紹介いただきました松本大学の伊東直登と申します。どうぞよろしくお願いたします。先般は塩尻市まで、遠いところお越しくださいましてありがとうございました。何がアドバイスができるか分かりませんが、一つでもお役に立てればと思います。どうぞよろしくお願いたします。

.....

報告事項

○事務局 どうもありがとうございました。藤田委員長には、引き続き議事の進行をお願いいたします。

○委員長 それでは、次第2「報告事項」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 資料1をご覧ください。5月15日に開催された第2回（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会の会議録です。当日は、13名の委員出席により、管理運営計画の素案第1章「（仮称）くろべ市民交流センター建設基本構想」のコンセプトの確認から第3章事業運営方針について協議をしていただきました。

管理運営計画策定委員会会議録については記載のとおりです。

つづきまして資料2をご覧ください。6月3日に開催しました、先進地視察の報告です。視察いたしました塩尻市市民交流センター（えんぱーく）は、「図書館」「子育て支援・青少年交流」「シニア活動支援」「ビジネス支援」「市民活動支援」の5つを重点分野とする複合施設であり、本市にとっても大変参考となる施設です。参加者は、藤田委員長ほか5名の委員、6名のワークショップメンバー、副市長、教育長、教育部長ほか事務局9名、計24名でした。えんぱーくでは、本日ご出席いただいております管理運営計画策定アドバイザーの松本大学図書館長伊東教授より『複合施設の可能性ー地域に必要な図書館づくりを考える』と題してご講義いただきました。概要につきましては、記載のとおりです。また、先進地視察参加者アンケートを行い、内容を添付しておりますので、参考にご覧ください。

つづきまして資料3をご覧ください。6月19日に開催されました、第3回・第4回のワークショップの様子です。前回のワークショップ開催後のご意見をふまえ、第3回昼の部は、メンバー9名の参加と上田座長、市関係課職員参加により2班に分かれて議論いたしました。

第4回夜の部はメンバー4名の参加と中尾座長、市関係課職員参加により全員での議論をいたしました。ワークショップでの議論の内容につきましては、後ほど資料4-3にて説明いたします。資料1から3についての説明は以上です。

○委員長 ありがとうございます。ただいまのご説明に対しましてご意見等ございますでしょうか。ワークショップに参加されたD副委員長いかがですか。

○D副委員長 意見ではないですけども、ワークショップはしっかりみなさん発言されていた。後ほど4-3の資料で、私の個人的な意見を述べていきたいと思う。

○委員長 他にございますでしょうか。C副委員長はいかがですか。

○C副委員長 D副委員長のお話の通り、みなさん、いろいろ意見を出していらっしやいました。ただ、夜と昼の部は人数が多いところとやや少ないところがありました。多いところは2グループに分かれてやっていたので、私自身全体の意見を聞けませんでした。事務

局のみなさんが意見を出しやすいように工夫をされていらっしゃるように思います。ただ、話がどうしても個別具体的な部分と基本的な部分で行ったり来たり多少はどうしてもすることはあります。まとめていくのは事務局も大変だと思う。ワークショップのやり方は非常にこれからの参考になるのではないかと思います。

○**委員長** それでは中身についてはまた後ほどということということですのでよろしくお願いたします。それでは進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

.....

協議事項（１）管理運営計画について（確認事項）について

○**委員長** 特にないようですので、次第3「協議事項」に進めていきます。「（１）管理運営計画（提案事項）」及び「（２）管理運営計画（提案事項）」について、先週事務局より事前説明を受けていますので、一括して事務局から説明をお願いします。

○**事務局** それでは、説明を進めさせていただきます。資料4-1から4-3の説明をいたします。まずカラーの資料4-1をご覧ください。こちらは検討項目となっております。今回第3回委員会では「はじめに」から「第3章事業運営方針」までの確認をしていただきます。また、第4章1①事業内容（図書館機能）について提案させていただくということになっております。協議事項（１）ですが、冊子形の資料4-2をご覧ください。この資料につきましては最終的な報告書の様式となっております。前回は2章管理運営方針まで確認いただいておりますので、今回は第3章事業運営方針を確認いただきます。P9～P10が今回新たに加えていただいた部分となります。ここにつきましてはP9の1～2行目のメインテーマ「わたしのサードプレイス～家でも学校や会社でもない、第3の居場所～」について前回の委員会でご意見をいただきました。これについては「そこに行けば、何かが見つかる施設、何かが解決する場所」としてあらゆる立場の市民の皆様にご期待感を持っていただく意味を込めて設定しております。今回ご意見いただいておりますが、変更なしで記載しております。そのほか3-2、3-4までにつきましても前回ご提案しましたものと変更なしで記載しております。ここまでが確認事項資料4-2の説明でございます。

○**事務局** 資料4-3について説明いたします。資料4-3の1ページから14ページまでは、管理運営計画の第4章「事業計画」の中の、①事業内容（図書館機能）について記載しております。

この資料では、項目ごとに、まず「現状」について記載しており、「現状」の右横の列では今後、図書館に求められる機能について「基本構想での位置づけ」を確認し、さらにもうひとつ右横の列に「調整方針」として、基本構想をふまえた具体的な事業の検討について示しております。図書館の「現状」と今後の「調整方針」を比較しながらご覧いただきたいと思っております。

この資料をもとに、6月19日にワークショップで議論していただき、メンバーの皆さんから出された主なご意見を、資料の右側の列に記載しております。一部、青い印字となっておりますのは、管理運営計画・第3章の事業運営方針の検討において、前回（4月）のワークショップで出されたご意見を記載したものでございます。

資料の1ページ目から順に説明いたします。資料の左端の列、「項目」A1（P1）からA8（P10）は、図書館の機能を8つに区分して示したものでございます。P11からP14に記載しております内容は、「項目」Bという区分をしており、図書館と他の機能との融合による新たな価値の創出についてお示ししている部分でございます。

まず、項目A1は、開館日・開館時間についての検討でございます。この項目の調整方針1から3は、図書館の開館時間は現在と同じく、平日は午前9時から午後8時まで、土日祝日は午前9時から午後6時までの設定とし、交流センター全体の開館時間は、午後10時までの設定を検討することとしております。また、市民交流センターの開館時間内であれば、図書館の利用時間終了後も学習場所を提供することなどを検討事項としております。

ワークショップの議論としましては、<1>bの「開館時間や休館日等は、現状維持のうえ、様子を見て拡充を検討してはどうか」という意見や<1>dの「キッズコーナー、児童図書コーナーは、ほかよりも早く閉館してもよい」というご意見がございました。交流センター全体の開館時間については、<2>bの「仕事のあとに利用したい。コラーレと同じくらいの時間がよい」というご意見、<2>dの「朝5時開館なら、出勤前の時間を有効活用して『朝活』が行える」というご意見、<2>eの「電車の時間を考慮した時間設定をしてほしい」というご意見がございました。また、市民交流センター全体の開館日については、<3>aの「休館日は年末年始だけにしてはどうか」、<3>bの「黒部市として年末年始の開館が必要か」という意見もございました。

続きまして、2ページの、項目A2は、図書館の基本的なサービスについての検討でございます。(1)は、利用者からの質問や相談への対応ですが、調整方針1、2では、「職員・スタッフの能力向上を図り、利用者の多様なニーズに対応できる体制を整備すること」を記載しております。さらに、調整方針4では「図書館の運営にボランティアやアルバイトなどのかたちで市民が参加し、得意分野や経験等を活かしていただくことで、利用の活性化を図りながらより幅広いサービスを提供していくこと」を検討事項としております。ワークショップでは、<1>aの「図書館の各階に、レファレンスに対応できる専属の司書が1名以上必要」といった人員配置に関するご意見、<1>bの「相談しやすく、親しみやすい雰囲気であってほしい」というご意見のほか、<1>dの「レファレンスコーナーをわかりやすい場所に設置してほしい」というご意見など、利用者が質問や相談しやすい環境整備を望むご意見がございました。

また、<2>a、bの「決まりどおりではなく、わかりやすい本の配架」や「行って見て楽しい展示の仕方」など、本の配架や展示の工夫を求めるご意見もございました。

続きまして、3ページの項目A2の(2)は、利用者登録や図書資料の貸出についての検討でございます。現状では、図書資料はバーコード管理をして、図書館スタッフが対面で貸出・返却対応をしております。調整方針では、ICタグの活用や自動貸出機の設置について記載しております。ICタグ導入や自動貸出機の設置により、利用者のプライバシー保護が可能となることや、貸出、返却が迅速に行えるなどのメリットが考えられることから、導入を検討事項としております。この項目について、ワークショップでは、<1>aの「ICタグを導入して人員配置を抑制できれば、閉館時間を遅くしてもよいのではないか」という、効率化によってサービス拡充につながるというご意見がございました。

また、利用者登録につきましては、<2>a、bの「現在の市内在住者、勤務者から『県内在住』や『旅行者』などにも対象を広げたらよい」というご意見もございました。

次に、項目A2(3)学習室についての検討でございます。現状では、2Fの学習室に50席が設置されており、中学生以上であれば利用可能で、静かな学習環境を提供しております。調整方針1では、「利用者一人ひとりが静かな環境で学習できるスペース」の設置、さらに調整方針2では、「少しにぎやかに学習したり、議論や交流ができる場の提供」ということで、さまざまな学習形態への対応を検討することとしております。ワークショップでは、<1>a、bの「学習の目的に応じて静かなスペースとにぎやかなスペースが必要」というご意見、さらに<1>dの「親子でも利用ができる、静かでなくてもよい『子ども学

習室』があるとよい」というご意見があり、多様な利用形態が求められていることがうかがえます。また、学習室の利用時間については、〈2〉a、bのように「図書館閉館後も市民交流センターが閉館するまで使えるように」というご意見もございました。

続きまして、4ページの項目A2の(4)は、その他ネットワーク・連携に関する検討でございます。現状では、県内図書館のネットワークによる相互貸借や、美術館や科学館等と連携した事業などを実施しております。調整方針2および3のように、これまで以上に幅広い分野の事業との連携や専門性の高いニーズに対応するための環境整備を検討事項としております。ワークショップでは、〈1〉aの「美術館や科学館との連携」や〈2〉の「学校との連携」に関する意見がございました。

続きまして、A3は図書資料に関する検討項目でございます。(1)は、一般蔵書についての項目ですが、調整方針1は「蔵書選定の方針にもとづく資料収集」について、調整方針2は、新しい取り組みとして、「雑誌スポンサー制度」を導入して民間事業者に閲覧用の雑誌を広告媒体として提供し、図書資料の充実を図ることを検討事項として記載しております。この図書資料に関しては、ワークショップにおいて、「黒部に関する資料」の収集というご意見が複数ございましたので、ワークショップ後に調整方針3として、「黒部について触れられた資料を積極的に収集・展示する」という記載を追加しております。ワークショップでは、〈1〉aの「黒部の民話の活用」、〈1〉cの「黒部ゆかりの人の本や黒部を題材にした本」の収集についてご意見がございました。一般蔵書のうち、郷土資料に関する検討は、図書館の機能として重要な部分であり、十分に検討を重ねていく必要があると考えております。基本構想におきましては、郷土資料を収集、記録、保存し、後世に伝えていく機能が図書館に求められるという記載がございます。調整方針3の郷土資料に関する部分では、「ジオパークを意識した『山岳』、『河川』、『水』に関する資料や北方領土に関する資料収集に努めるほか、宇奈月館では、より専門的な電源開発や山岳ルート開拓に関する資料の充実を図る」こととして、宇奈月館と役割分担しながら蔵書の充実を図ることを検討事項としております。

続きまして、5ページの項目A3の(2)は、CD、DVD、BR等、視聴覚資料についての検討でございます。基本構想では、「映像や音楽等の資料の充実」について記載がございます。調整方針では、「主に郷土資料に関するものを所蔵する」こととしております。これにつきましては、高額な資料であることやレンタル業との目的の違いを明確にする必要があることから、購入基準や閲覧方法については十分に検討する必要があることを記載しております。この項目につきましては、ワークショップでのご意見はございませんでした。

項目A3の(3)は、データベースについての検討でございます。基本構想では、郷土に関する資料を収集、記録、保存し、後世に伝えていく事業や、行政資料や歴史文書のデジタル化の推進などを、求められる機能として示しております。調整方針1、2では、将来に向けてデジタル化して保存、公開することが望ましい資料の選定とその運用を検討することとしております。調整方針3では、図書館所蔵の資料だけでなく、他の機関が所有する文化的、歴史的資料の保存、継承に努めることも検討事項としております。ワークショップでは、「黒部の昔の写真を収集し、若い世代に受け継げるとよい」というご意見がございました。

続きまして、6ページの項目A4は、集会活動等についての検討でございます。調整方針1では、従来から行っている活動を基本としながら、「交流センター内の連携による教室開催」や「子育て支援と連携したサービス」、「若年層を中心としたビジネス支援」など、より幅広いニーズへの対応をめざすこととしております。また、調整方針2は、「情報の発信拠点」として、家庭や仕事、地域の活動などさまざまな場面での支援につながる

情報や学習機会を提供することとしております。ワークショップでは、〈1〉の交流センター内の連携による教室開催として、「映画を上映し、来場者の交流の機会があるとよい」というご意見や、〈2〉aの「若い人からシニアまで一緒に楽しめる活動を提供してほしい」という高齢者のニーズに応じたサービスに関するご意見がございました。

続きまして、7ページの項目A5は、広報についての検討でございます。調整方針2では、「交流センター月刊誌の発行」、また、調整方針3では、「さまざまな年齢層にわかりやすい表示による情報発信」を検討事項としております。ワークショップでは、〈1〉aの「1階のエントランスに掲示板を設置し、本のランキングや新刊を紹介することで、上層階の図書館へ誘導する」というご意見、〈2〉aの「高校生など若者向けに、LINE、Facebookなどでの情報が必要」というご意見、さらに〈3〉の写真展示等による集客についてのご意見がございました。

続きまして、8ページの項目A6は、ボランティア等の活用についての検討でございます。調整方針1では、「豊富な経験や知識を活かした図書館ボランティアにより、多様なニーズに対応した活動を行う」こと、調整方針3では、「ボランティアによる世代間交流を図る」ことを検討事項としております。これは、市民が自主的なボランティア活動を通して、交流センターの運営や事業に関わることで、利用の活性化を図ろうとするものでございます。ワークショップでは、〈1〉aの「14歳の挑戦」や「インターンシップ」を受け入れることで若者へのアプローチにつながる」というご意見や、〈1〉bの「シニアの力やノウハウを、交流センターの運営に活かしていけばよい」というご意見がございました。

続きまして、9ページの項目A7は、ビジネス支援についての検討でございます。調整方針1では、「ハローワークとの連携による就職支援情報の提供」、調整方針2では、「ビジネス関連コーナーの設置や企画展」を検討することとしております。これにつきましては、現状において実施している活動の中から「ビジネス支援」と位置付けることができるものを記載した内容であります。今後はビジネスに関するニーズを把握し、ビジネスのさまざまな場面で支援していくことを検討事項としております。ワークショップでは、〈1〉aの「若者の就職をサポートする活動」や、〈2〉aの「資格試験の勉強の支援」に関するご意見などがございました。

続きまして、10ページの項目A8は、子育て支援についての検討でございます。現状では、出産や育児本の設置など図書館の資料を活用した情報提供や、ボランティアによる絵本の読み聞かせ会などを行っております。調整方針1では、「子育て支援センターなど他機関との連携により、育児講座などを開催すること」、調整方針2では「親子が安心して過ごすスペースの設置」など、子どもや子育て中の親を支援する環境の整備、情報発信、事業の企画を行うことを検討事項としております。ワークショップでは、トイレ設備や飲食スペースに関するご意見、「昼や寝ころびスペースで読み聞かせができればよい」というご意見がございました。

続きまして、11ページの項目Bは、「機能融合による新しい価値の創出」についての検討でございます。調整方針の一つめには、「市が主体となって実施する事業」、また二つめとしては「他機関・民間団体・市民等が主体となって実施する事業」を例示しております。これらは、複合施設であることを活かした利用方法や、より幅広い分野の事業との連携や、市民が運営や事業に関わることで利用の活性化を図ることなど、機能融合の実現に向けて検討する事業について記載しているものでございます。ワークショップでの議論のうち、11ページの〈1〉から12ページの〈4〉は、交流センター全体の機能融合に関わるご意見でございます。まず、センター全体の機能融合に向けての認識ですが、〈1〉cの「複合施設なのに『図書館だけ』『公民館だけ』という組織別々になってほしくない」というご意

見、〈1〉dの「利用者がたらいまわしにならないように、職員の一体感、情報共有を求める」というご意見がございました。また、〈2〉では、各機能のゾーニング・運用をどのようにしていくのかというご意見、〈3〉aの「wi-fi、コンセント、パソコンの使用が可能な設備」を望むご意見や〈3〉bのセキュリティや防犯に関するご意見もございました。さらに、12ページの〈4〉では、「ゆっくり過ごしたいのでカフェスペースが必要」というご意見がございました。

12ページの、調整方針1は「市が事業主体となる事業の例示」でございます。この項目に関するワークショップでの議論は〈5〉に記載しております。〈5〉bの「ビジネス支援は土曜日、日曜日に対応してほしい」という開館日の設定に関するご意見、〈5〉eの「廊下を広くして簡単な会議をできるように」という共用スペースの活用に関するご意見、さらには〈5〉fの「ひとつの目的での利用ではなく、多目的を持って来館する施設にしたい」というご意見もございました。

図書資料の活用に関しては、〈5〉iの「図書館の本を交流センター全館で閲覧可能にしてほしい」というご意見、子育て支援に関しては〈5〉rの「親子で楽しめる、親同士が交流できるなど、今までの機能にプラスして、図書館との相乗効果を期待したい」というご意見など、さまざまなご意見をいただいております。

13ページの、調整方針2は「他機関・民間団体等が事業主体となる事業の例示」でございます。この項目に関するワークショップでの議論は、〈6〉に記載しております。〈6〉bの「市内のサークルの案内など市民活動の総合案内として機能できるのではないか」というご意見や、〈6〉dの「託児機能があると、親が図書館を利用できるのではないか」といったご意見もございました。

そのほかに、〈7〉には「商店街との連携」に関するご意見として〈7〉aの「市の地産地消を活性化させる取組を実施できないか」や〈7〉bの「駐車場で朝市を行い、農業支援につなげる」というご意見、〈7〉dの「商店主と接する機会（まちゼミ等）があるとよい」など、さまざまなご意見をいただいております。

資料4-3の図書館機能の事業内容につきまして、ワークショップでの主なご意見とあわせてご説明いたしました。説明は以上でございます。

○委員長ありがとうございます。まず、確認事項というところがありましたので、まず、「資料4-2」については、前回までに議論をしました部分であります。3（1）確認事項は本日の確認事項となっております。確認事項につきましてはこの案で決定とさせていただきます。よろしいでしょうか。それとも新たにご意見があれば賜りますがいかがでしょうか。ご意見がないようですので、確認事項につきましては、決定という形で、このまま進めさせていただきます。

【追加の発言がないことを確認】

○委員長今回は図書館機能についてということで、ご説明がりましたが、ワークショップをふまえた上でのご提案となります。この部分につきまして「資料4-3」の図書館の根幹部分だと思います。ワークショップのご様子、またご質問、ご意見等ございましたら承りたいと思います。いかがでしょうか。

○D副委員長まずワークショップのことを具体的に話させていただきたいと思います。私が参加したのは、人数の少ない夜の部だったのですが、参加されたワークショップのメンバーの方は自分の思いをワークショップでぶつけられております。個々の中身についてはここに書いてある通りです。望まれたことが書いてあります。私も感じたんですけども職

員の方も参加されていて、職員の方は最初は何も言わなかったのですが、「何か個人的にでも考えていることを話をしてよ」といいましたら、ぽつぽつと意見を出されていました。1時間後くらいには「僕はこう思っているんだ」と発言されていました。このワークショップの中にも書かれています。みなさん、思いは持っておられて、何から手をつけていかがたぶんわからなかったのかなと座長として反省したのですが、図書館機能の核となる部分として話をしていたので、最初に出たのは図書館のフロアは何階になってどうのこうのとか、トイレはいろいろな人が使うのでこのように間仕切りしてほしいとか、こんな本が必要だねとか、この議論に書いてあるわけですがけれども。私が最後に感じたのは、図書館機能だけではなく複合施設の中でいろいろなセクションがあって、そこが結局は一体感を持って職員の方が取り組んでいただければ核となるものがしっかりみえるのかなというふうに私は感じました。えんば一くでもそういう話を聞いたのですが、どここの部署がどこどこだけを管理するではたらい回しになってしまったり、線引みたいなものになりぎくしゃくするだけなので、施設全体を職員というかスタッフを含めて全員で責任を持って管理するんだという一元管理みたいなところを私個人的には痛感というかこうなってほしいなと感じたところがございます。以上です。

○委員長 ワークショップをふまえてですので、C副委員長さんにも、ワークショップに参加されてのご意見をお願いします。

○C副委員長 ワークショップと、先だって塩尻市で研修させていただいたということで、やはり伊東先生の中で印象深かったのは行政の縦割りだけではなく市民の縦割りがあるということでした。今度、私たちが検討している市民交流センターも、教育委員会生涯学習課だけではなく、子ども支援センターについては行政でいえば子ども支援課だったり、ビジネス支援であれば生涯学習課になるのかとか、いろいろな課が関わっている。総合的に司令塔的な機能を担うのがどういう形であるのかは大変大事だと感じました。それと、ワークショップの最後に申し上げたのですが、塩尻を見学した次の日、私が所属している図書愛する会で新潟県上越市の直江津駅前の図書館に行きましたが、そこは公民館が入っている。今回の黒部市の交流センターは三日市公民館と婦人の家等、生涯学習センター的な機能が入る。公民館が入るということは、いろいろな問題があるということを上越でも感じた。また、こちらでもワークショップの最後でお話をしましたが、塩尻にああいう施設が出来たのは、まちの活性化がまず大前提にあるということだったと思う。黒部も個々の図書館機能や図書館をコアとした機能の機能融合は当然大事なことだが、都市としての中で、活性化にどうつながっていくのか議論を深めないといけないがそこまで行っていないと感じている。ワークショップでは事務局はきちっとたくさんの意見を整理されているので、一つひとつ目を通していただければどのような意見が出たかは分かります。

.....

協議事項（2）管理運営計画（提案事項）について

○委員長 前回の委員会の時にも、図書館の機能について、こういう図書館になればいいなとか、こういう図書館であってほしいという議論についてはそれは次回にということで話を引き延ばしていた。図書館機能についての議論の場ですので、忌憚のない意見を出していただきたい。いかがでしょうか。

○A委員 1 ページの開館時間についてなんです、カラーレ並と書いているがカラーレは

22時半まで通常開館している。土曜日は23時まで開館している。私は当時コラーレにいたので、時間を決めるときにかなり議論をしている。黒部市は18時を過ぎると商店街にも誰も人が通っていない。人びとはどこで何をしているのかという話があって、もう少し都会的な雰囲気や夜遅くまでやっている場所をつくる。あまり遅いのは良くないが、22時は早い。22時半まで開けることによって、多くの人たちがコラーレは22時半までやっていることを認識して、仮に人が少なくても22時半まで開けよう、土曜日は23時まで開けようという方針だった。都会的なものをコラーレに求めようということで、開館時間を、外にアピールすることも含めて決めました。開館時間は重要で世の中に対して意味を持つと思っていますので、あまり安易に22時でよいとかいう決め方はよくない。これから5年、10年、そういうときに時間の使い方がどうなっているとか、図書館がどういう位置にあってほしいとか考えながら、やっぱり、開館時間は多いほうがよいと思っている。人員体制等、大変な面もあるが、可能な限り長時間開ける体制にしておいてどうやって考えるか、という考え方のほうがよい。ここに書いてあるものはしぼまっていく感じで、「これでいいでしょ」という書き方をしているのは、僕はちょっと不満です。

○委員長時間については、事務局のほうはどのような形でご提案しているのかお示しいただけますか。

○事務局こちらについては22時ということで検討している。これがコラーレ並みということで30分だったり、1時間だったり短い時間を記載していますが。

○A委員その30分が重要なんです。みんなが22時でおわっているところを22時半までやるという作戦、というか、そういうイメージでやっているの。コラーレ並みの22時と書くのが失礼じゃないのかと感じる。

○事務局記載方法についてもご指摘いただいておりますので、修正をさせていただきたい。22時という設定が、現行の施設が22時という中から出てきた。検討はこうするわけですが、当然、ニーズや社会状況は刻々と変わっていきます。現在、開業5年前ということでもありますし、この後調整方針としては現行機能を引き継ぐということからのスタートですが、今後町の魅力の向上や若者の行きたくなるまちを考慮しながら検討させていただきたいと思っている。コラーレ並みに22時という記載が事実と異なる部分がありますので、この点は修正させていただきたい。

○委員長記載は修正という形を取ることと、時間については現状とこれからの状況について検討した上で時間を割り出させていただくということでもよろしいでしょうか。石川委員さん、こういう形でよいですか。

○A委員はい。

○委員長他にはございますでしょうか。

○G委員開館の時間について。冬休みや夏休みのことを考えたり、電車の時間にあわせて電車の発車する30分前とか、そういうことを考慮してあげたほうがよい。私はコラーレで5年間ほど元旦にかかるた、百人一首の大会をやるため元旦に出ていた。職員の方たちのご苦労も多かったのではないかと思います。私たち主催者側としても、頑張らなければというプレッシャーもありました。盆と、正月の活動については、職員にも家族があるということも考慮していただきたいと思います。

○委員長働き方改革といわれている時代ですので、今後に向けてどのように年末年始の時間設定するのか。ご意見という形で、記録に残すということでもよろしいでしょうか。他にございますでしょうか。

○C副委員長記載のあり方と関わってくるのですが、図書館の開館だけというイメージが強すぎるのでは。やっぱりセンターの開館と一緒に変えてほしい。富山市立図書館（TO

YAMAキラリ)について新聞で読みました。図書館の開館は9時ですが、1時間前には人が来て開館を待ちながら、ゆったりと新聞や雑誌を読みながら待っているということです。先ほど朝活についてワークショップでもでしたが、図書館の開館のイメージが強いので、「センター」としての開館としてあわせて変えてほしいなと思います。

○委員長図書館の部分と交流センターの部分という形で、並列に記載する予定はありますか。

○事務局機能別の議論というところからスタートしてしまった感がございます。上田委員のご指摘のように、本来、館全体の部分があって、その下のものというあり方ということが重要なのかなと思っております。前後しますが、開館時間および休館日の検討につきましては、この後の事業計画の3、4に部門別の開館時間、休館日という項目があるのでここに記載します。機能融合として今回、皆様に議論していただいている趣旨なので、その辺の記載の方法につきましても、最後のまとめのところで工夫をしていきたいと思っております。

○委員長そういうことであれば、資料の工夫ということで進めさせていただくことで、よろしいでしょうか。あと、TOYAMAキラリの話ですが、私は事業運営委員の座長を賜っておりますので、中の事情は明るいつもりです。1階には富山第一銀行本店が入っておりまして、その1階には市立図書館の情報コーナーがあり雑誌等読めるものを置いています。そこには椅子もあり、ゆったりするフロアがあり、居場所となっています。すごく人が集まっているいろいろな会話が成り立ち、コミュニケーションの場になっています。居場所があるのはよいなと私は感じています。ただTOYAMAキラリは飲み物の自動販売機があり、蓋付の飲み物は図書館内に持ち込み可能ですが、食べる場所、ちょっと飲める場所といった飲食スペースがないのです。2階にカフェはありますが、外部から持ち込んだ飲食物を食べられるスペースはありません。1階もなるべく食事をして欲しくないとか、飲み物についてもご遠慮願いたいというところもある。その部分については建物と利用者との間では、ゆっくりすることについては難しいところはあると思っております。さて今回まだ1ページ目で議論が錯綜しています。14ページまで通してご意見やご質問をいただき進めたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○D副委員長3ページの学習室についてです。ワークショップの議論の中で「にぎやかしいところ」と「静かなスペース」についての意見が多く出ていました。図書館も3階とか4階とか、カテゴリー別等、いろいろな分け方がこれから協議されていくと思っております。僕もここが一番重要だと思っております。ワークショップでは、映画系のところで「地域の花屋さん」と書いてあるところがあったと思いますが、ビジネスマッチングや学習の進め方については、個人的にはよいなと思っております。私は去年、一昨年の方のところは出ていないのでわからないのですが3階が静かなスペースなのかとか、4階が静かなのか等、こういったことは現状のイメージでみなさんと共有できたら議論が深まるのかなという思いで述べさせていただきました。

○委員長伊東先生がせっかくいらっしゃるのでご意見をいただけますでしょうか。

○アドバイザーこの項目にある(3)の学習室は文字取り「室」の話だと思います。その意味でいうと、利用のされ方は高校生が受験勉強するような「学習」を強く意識していると思っております。図書館としては、たとえばビジネス支援をしたいわけですから、社会人のみなさんが、まさにサードプレイス、セカンドオフィスとして使ってもらえるような場所の機能が重要なのだろうと。その場合、音がにぎやかな中では仕事や勉強をしたくないという人たちがいますから、やっぱり部屋になっていて、50席くらいとなっていますがそのような空間なのかなと。

いま、図書館は「にぎわいのある図書館づくり」が普通になってきているので、サイレ

ントルームをつくるという逆発想があり、静かにしたい人が部屋に入る。図書館側は、しゃべることでもできる。カウンターで職員と話をしなければいけないわけですから、誰もしゃべらないことはありません。むしろざわめきのほうを図書館側に置いて、静かにしたい人がいたい場所は部屋にしている。えんぱ一くに行かれた方はご覧いただいたと思いますが、3階に高校生がいたと思います。あれが、にぎやかな学習スペースとここでいっている部分のイメージかと思います。そのようなスペースが図書館の中にあるのか、共有スペースになるのか、設計上の話はこれからだと思います。ゆるく分かれるというやり方もあります。にぎやかなほうから静かなほうへだんだんと距離を置くゾーニングのやり方もあります。設計がこれからなので、いくらでも入れられる気がしています。

○委員長子どもや児童書のコーナーはいかがでしょうか。

○アドバイザー子どもに「シー」と言って、追いかけてまわさない図書館がいいなと思っています。図書館に行くと、司書が「シー」と言うから図書館は嫌と子どもが思っているのは本末転倒である。

ただ、常軌を逸した騒ぎをする場所ではないので、社会勉強として図書館職員や親や周りの人も「こういうところはそんな声を出しちゃだめだよ」といえば済むことかなと思います。図書館に来たら、しゃべっちゃ駄目、走っちゃ駄目、食べちゃ駄目ということではないのかなと僕は思っている。

○委員長図書館で走らないでください、静かにしてくださいというような時代ではなくなってきています。また、「静かなざわめき」という言葉があります。図書館で本を手にとった親子には、会話があるべきだと思います。静かにしなさいという形で、会話やコミュニケーションを断ってしまうのはよくありません。他にございますでしょうか。機能については本日十分に議論したいと思います。

○F委員図書館機能、その他についてこれだけ多様な機能を載せてあるのは大変だと感じました。私は図書館というものは、中身というか、いろいろなものが図書館に置かれているのが大きな仕事ではないかと思います。4ページに一般蔵書について書かれていますが、調整方針の中にある蔵書の内容が3つだけしか書かれていないのは、これでよいのかと思う。もちろん、内規に基づいて執行するといえばそれまでなのですが、いままでの図書館と新しい図書館がどんな風に中身として変わっていくのかということ、少し明らかにしていただくとありがたいと望みます。

その中で、ワークショップの議論だとか、あるいは想定されている事業展開等については若干そういったところを書いてありますが、やはり調整方針の中できちっと書いていくほうがよい気がいたします。いまの時代とこれからの時代ということも含めて、蔵書のあり方を検討していただきたいと思います。この中で、黒部に関する収集や展示をこれまでしていなかったかということ、していたと思うんですね。新しいテーマでもないなと感じます。では、新しいことをするのはスポンサー制度だけなのかという感じがするので、もう少し充実していただきたい。また、データベースの活用となっています。これから郷土資料をデータベース化していくのだろうと思います。アーカイブという表現もありますが、たとえば新聞だって、いまや日常の新聞をそのまま置いてあるというよりはむしろデータベース化されている新聞が図書館に置いているのが主流になってきているのではないかと思います。そのような点も含めて、調整方針の中で図書館の中身の充実をうたってもらいたいと思います。

○委員長ありがとうございます。いままでの図書館とこれまでの図書館という点を明確に明記したほうがよいというご意見でした。今後に向けてどのように展開していくのか、今後の事業展開についてというところで、書き方や言葉の表現の問題が出てきているのかと思

いました。この点については、事務局で何かありますか。

○事務局F委員がおっしゃったように、黒部について触れられた資料というものも図書館にはあります。ただ、基本構想に書いているように、郷土資料に関しましてはジオパークや北方領土を挙げていますが専門的に収集しておりません。今後どのようにするかを基本構想に示してある方針を含めて検討します。黒部にはいろいろな企業もありますし、そのようなものも含めまして、どのようにするのが黒部にとって地域的なものとしてどれがよいのかを検討したいと思います。デジタル化に関しては、図書館で所蔵している「市報くろべ」で古いもの、紙が劣化したものがあり、そのデジタル化を進めているところです。

○委員長新しい図書館の蔵書冊数は何冊ですか。

○事務局蔵書冊数は25万冊ということになっています。内、開架は16万冊と基本構想で書いております。

○委員長それは人口比で出している数字ですか。

○事務局はい、人口規模で割り出した数字です。

○委員長図書館の蔵書冊数は人口比から割り出した数字だということです。

○F委員図書館には、研究資料を置くのも重要な役割だと思っています。現行の図書館が充実しているかどうかは現行の図書館をそんなに利用しているわけではないので分かりませんが、ジオパークのことを調べるにしても、黒部だけの資料を集めるのではなく、ジオパーク全般、自然科学全体のものがないと比較、対照ができません。研究資料に対しては充実させてほしい。また研究のために、過去の文献や新聞も重要な役割を果たすので配置してもらいたいと思います。

○事務局私たちもいろいろな図書館を視察しています。上越市直江津図書館は、鉄道についての資料を揃えてありました。そのようなところを参考にしながら、黒部として何を置くべきなのか考えていきます。

○委員長他にございますか。

○H委員9ページのビジネス支援について確認させていただきたいことがあります。事業運営方針として、図書館機能のところ、ビジネス支援においては主に学生の就職を考えていけるようにということと、企業に勤めている方が資格を取るところに重点を置くということによろしいですね。

○委員長スキルアップやリカレント等、学び続けたい、資格を取りたいという方に対する支援も視野に入ってくるものでしょうか。

○事務局こちらにつきましてもワークショップでご意見をいただいています。青色の部分は4月のワークショップでいただいた意見ですが、ニーズということで受け取れると思われました。

こちらH委員がおっしゃった通りで、学習室のところにも書いていますが、会社が終わってから資格試験の勉強をしたいということで、学習室を長く開けておいて欲しいということもある。ターゲットとしても考えておりまして今回の管理運営計画でも記載をさせていただいています。また学生対応ですが、これからの社会を支える人材育成も重要であります。若者の県外流出がある中で、ここで巣立っていただいて、将来大きくなってここに帰ってきてもらったり、どこかで成功してここに還元してもらいたいということもあるでしょう。これからの社会を支える青少年も重要なターゲットとして記載をさせていただこうと考えています。こちらにつきましても図書館機能の中から考えたビジネス支援です。次回はビジネス支援機能についての議論なので、そちらのほうで具体的に記載をさせていただきたいと考えています。

○H委員ありがとうございます。9ページ目の検討事項に商工会議所との連携、役割分担、

すみわけの確認が必要ですよということと、その下には、就職、起業等、ビジネスに関するニーズを把握するという記載があります。ニーズの把握をしっかりとすることでより有意義になると思う。学生もそうでしょうし、それに関わる先生方や企業で資格を取ろうとしている人がどのような資格を取ろうとしているのか、企業側としてどのような資格を取らせたいのかというニーズをどのように把握するのがベストなのかを検討していければよいのかなと思います。コラーレでは資格取得に向けて勉強している人もいるので、何を必要としているのか聞くのもよいかなと思います。

○J 委員先ほどD委員がおっしゃっていた、静かなところにぎやかなにできる場所という面では、私個人としては静かに勉強ができないところでは居心地がよくないなと思います。あと、ここには記載はないのですが、デジタル化という面では、借りたい本が図書館に来て、なかったときに、そのまま帰ってしまうということがないようにできればと思います。また、部屋の貸出状況をホームページだったりアプリだったりを利用し情報発信をしていくと、若い世代の高校生や子育て中のママは事前に調べてじゃあいこうかと形になるかなと思っています。個人的にはホームページ、情報発信を大事にしていきたいと思っています。

○委員長いまのニーズにあった情報発信を視野に入れるという点を記録として残す形でもよろしいでしょうか。今後の検討課題としても上がってくるかと思っています。

○I 委員戻ってしまうのですが、1ページ目になります。開館時間の話についてです。私は、コラーレで働いていますが、こちらの交流センターの方はいろんな世代の人たちが使うと思います。全部が全部同じ時間ではなくてもよいのではないかと思います。こちらに書いてあるように、キッズコーナーは早く閉館してもよいのでは。朝活で毎日朝5時開館は辛いと思うのですが、そんな感じで施設ごとに利用者の人たちの動きやすい時間に設定するのもありかと思っています。ちなみにコラーレの場合は、水曜日が休館日でそれ以外は夜22時半まで、土曜日は夜23時まで開館しています。試験期間中は学生さんたちが席がなくなるくらいたくさん利用しています。うるさいので注意してくださいという苦情もきています。試験が終わると社会人が資格の勉強をしに来ています。よく保育士さんが何人かで、模造紙を広げて工作していて、勉強だけではなく、資格を取る、工作する人も来ています。夜22時半、23時までではぜったい誰かいます。すごい大雪の時や台風がひどく普通レストラン等は閉まっている時でも、閉館まで誰か最低1人か2人はいる感じですよ。参考です。

○委員長ありがとうございます。やはりニーズに合わせる検討をしていただく、話を詰めていただければならないと思います。記録として残していく形でよろしいでしょうか。

○A 委員ニーズを創り出していくことが大切。

○委員長そうですね。若い世代、あらゆる世代に対応していくことが重要ですね。図書館というところはシニア世代はこの時間、子育て世代はこの時間等、幅広い世代に利用がしやすい時間で開館することが重要なので、今後に向けて検討していくことが大切です。いま簡単に決められることではないと思うので、今後詰めていく一つの課題として記録に残していきたいと思いますがよろしいでしょうか。

○B 委員先ほどから聞いておりますと、お年寄りの方は、足が重いので、図書館から足が遠のいてしまうかもしれません。私も含めてですが、どれだけの方が図書館を利用されるのか。図書館は昔から図書館は本を読むところだと思います。楽しむところや勉強するところではないと昔は思いました。そういうイメージを持つ人がたくさんいらっしゃると思うんですが、その人たちにいまの時代の図書館はこうなんだよと知っていただき、ニーズに合わせたことをしていただけたら、新しい施設は町中にできるので、たくさんの人たち

が来ると思います。きっとお年寄りも、みんな時間を持て余していると思うので、楽しいことがあったら必ず足を運びます。楽しい場所、情報交換の場でもあるので、お年寄りの考え方を考えていただくとよいと思います。

○委員長 図書館はちょっと寄るところ、活動するところ、出会いのあるところ等、いろいろな形の図書館が存在しています。新しい形の図書館が出来上がってくればよいと思います。そういう形でも機能を考えていかなければいけないと思います。記録として残していただきたいと思います。

○E委員 私の務めている支援センターのスタッフで、10ページにある子育て支援について考えてきました。「親子がおしゃべりしながら」「親子で読書できる」とありますが、子育て支援センターは未就園児を対象としております。単純な疑問としてここでいう「親子」とは、いくつぐらいだろうという話になりました。児童だから小学生までの親子とすればいいのかという単純な疑問がでました。

私たちは実際にお子さんに関わるなかでトイレの問題があります。前回は話が出ておりましたが、最近はイクメンであるパパたちもおむつを替えたりしています。5年後、10年後どうなっているかわかりませんが、男性用のトイレにもおむつ変えのシートがあったらよいなという意見が出ましたし、女性用も男児用の小便器があるとよいと思います。便座も子ども用のを入れ替えるのではなく、予算はかかりますが、最新型で全部ついている一体化したようなものがよいという意見も出ていました。

親子でゆったりできるのであれば椅子だけではなく、フロアで裸足になって寝転って本を読める場所があるとよいという意見が出ていました。

また、キッズコーナーと子育て支援センターとのすみわけはどういう風にしたほうがいいのかという意見も出ました。

私は塩尻には行かなかったのですが、CiCのように縦割りではなくフロア的なものでできたほうがよいのかと思いますし、小さい子どもたちだから区切ったほうがよいのかなとか、ガラス張りで見えやすいフロアにしていけばよいのかなとか、これから考えていくことかなという意見が出ておりました。

○委員長 事務局ではこれはまた後ほどという形になっているのでしょうか。答えられる部分はございますか。

○事務局 基本構想の中では3階が図書館・子育て支援機能配置ということで考えております。児童図書コーナー、読み聞かせコーナー、キッズコーナー、子育て支援コーナーの機能が配置されております。配置の例も書いておまして児童図書コーナーの横に読み聞かせコーナー、キッズコーナー、子育て支援コーナー、貸出カウンターの配置の例が載っております。ただこれは基本構想の中での議論です。今これを詰めるために管理運営計画を策定いただいておりますので、その中で子育て支援センターとキッズコーナーの場所を離れたほうがよいという意見もあるならそのようにも考えられますし、仕切りをつくる案もあり得ると思いますのでご意見を聞きながら進めたいと考えています。

○事務局 トイレの件ですが、最近の新しい施設につきましては子ども用トイレをつけているところもございます。それも併せて検討していく必要があると思います。また、おっしゃるように子ども用の便座を別にすると逆に使いづらいというお話もよく聞きますので、それも含めてどのような形がよいのか検討していきたいと考えております。

○委員長 よろしいでしょうか。

○K委員 私は、ここに書いてあることについて、反対でもなんでもありません。ただ私がこれを注意して読んだのは、ワークショップは私は出ておりませんので、ワークショップでどんな意見が出たのかには関心がありました。特に桜井高校が交流センターに近いとい

うことから、学習室を使用する目的というのは主として自分の参考書や問題集を使って学習室として利用することが想定されると思っています。しかし、いままでの学習室の利用では、厳しいのではないかと。いままでの家庭の勉強部屋から図書館の学習室に代わるだけで本当に第3のサードプレイスとしての魅力的な場所になれるのか、なるのは基本的に難しいと思っています。やはり、そういう場所になるには、いままでの学習室のあり方ではなくて、学習室の多様なありかたが望ましいのではないかと。第1、2回のワークショップで個人学習、グループ学習、にぎやかな空間等について論議されていたことが書かれていましたが、7割以上の生徒の図書館に来る目的は学習室の利用なのです。その中で、この交流センターの基本方針になっている第3の魅力的な居場所として学習室は、いままでのような個人学習の場だけでは大丈夫かなという疑問は持っております。私は富山市立図書館に30何年間勤めていました。学習室の利用については、生徒には厳しい質問でしたが、「あなた方は勉強部屋は冷房があって快適なのに図書館に来なくてもよいのでは」といういじわるな質問を何人かにしたことがあります。個人の部屋にいと不安になりますが、周りに受験勉強している仲間がいると、その雰囲気の中で自分も安心して頑張れるという返事がありました。また、テレビや冷蔵庫等の誘惑されるものが近くにないのがよい、メールやインターネットに誘惑されないという意見もありました。私はなるほどと思いました。図書館は、図書館の資料を使って利用する場所であって、単なる受験勉強の場ではないという基本的な考えを持っているのです。ただ、ここは図書館だけではなく黒部の交流センターでありますので、受験勉強する人も交流できることはよいことだと思っています。

もうひとつはワークショップの議論の中で、サードプレイスについて学生たちは本当によく意見を聞いたりして、よく理解しているなと思いました。それは言葉の理解であって、本当に学習室がそういう場所になるかについてはもう少し真剣ないろいろな具体的な意見が出てきてもよかったですのではというのが正直な気持ちであります。

私はワークショップの中でも触れておりましたが、個人学習からグループ学習の場、学習発表の場、共に育つ場、人の中で成長する場、談話室、相談できる場所、飲食コーナー等も設置することが大切です。たとえば、学習室もテーブルと椅子があればよいというものではなくて、周りに受験生が関心を持つような本を並べて環境整備をする中で学習する雰囲気を作る必要もあるのではないかと。また、静かな場所で学習したいという要望もありますが、受験に対して不安の中で友達と相談しながら、利用する人たちに意見を聞きながら学習をしたいという生徒がいることも事実であります。私はそういう点から申しまして、学習室の運営のあり方は本当に図書館の管理運営の重要な、図書館本来の姿がでる部分だと考えます。

高校生は図書館を利用する一番利用者が少ない層なのです。これだけ図書館について意見を聞いているのですが、本当は図書館の利用されるもっともたくさんの人の意見を聞いて欲しいと思います。ただやはり隣に桜井高校があるということなので、桜井高校の意見を聞きたいという意見があったからだと思います。だったら学習室のことをもう少し突っ込んで聞いてほしかったなというのが正直な気持ちでございます。

もう一つ、開館時間については県内でもいろいろな場所につくられた図書館があります。コンピューターで時間帯の利用状況が簡単に出るのです。そのような利用状況のデータを図書館で用意されて、具体的な開館時間の検討をしていただけるとありがたいです。

富山市は市長から開館時間延長という話が来たときも、すぐにやりますではなく、試行錯誤で開館時間帯別の利用状況を調べたり、管理運営費として1時間いくらかかるかを計算する等試行錯誤しました。開館時間は慎重に検討する必要があると思います。ぜひ、昔と違ってコンピューターを使えば時間帯が簡単に出るので、それを利用して、参考にして

決めていただきたいと思います。以上でございます。

○委員長ご意見として記録に残します。次回に向けていただいたご意見を叶えるためにはどのような形にするのかご検討をいただければと思います。それでは予定の時間も過ぎております。次回に向けましてご意見というところをきちっと詰めていただく、修正案をご提案いただきながら決定していきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○K委員あと10秒ほど。富山県図書館協会で、アンケート調査をしました。県内の25校の高校の946人から聞いたものでありまして、一覧で見られることになっています。桜井高校だけではなく、県内25校の900何十人の生徒がいろいろな意見を述べています。こういうことも、ワークショップの中で検討していただけるのならば、使っていただければどうか。これは黒部の図書館にも来ているはずなので、ワークショップで必要な枚数はコピーしていただければと思いますので、よろしくお願いします。以上です。

○委員長黒部に必要な図書館は黒部市民が考えることがポイントになるかと思えます。ただ、富山県にはどのような図書館が必要なかと考えることもありますね。それでは、先に進めさせていただきます。

.....

協議事項（3）その他

○委員長最後に「（3）その他について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局それでは時間もありませんので簡単に進めさせていただきます。その他ということで資料5、6、7について説明させていただきます。

まず資料5ですが、年間スケジュール予定となっております。毎回配らせていただいておりますが、いくつか追加点がございます。

本日の委員会の後、高校生のニーズ調査として7月31日にU-18ワークショップの2回目を開催いたします。内容については資料6で説明いたします。

また、続きまして追加となった行事ですが8月3日、4日に納涼楽市において不特定の方へのニーズ調査を行います。こちらの中身につきましては資料7にて説明いたします。

図書館以外の機能の事業内容についてのワークショップを8月28日に第5回、6回として開催します。皆様には9月25日火曜日の15時から本日と同じこちら市役所の201・202会議室にて第4回目の委員会を開催いたします。

それでは資料6をご覧ください。2回目の高校生向けのU-18ワークショップとなります。1回目同様桜井高校の1、2年生のみなさん20名程度の参加していただきたいと思いますと考えておりまして、すでに高校へ募集のお願いしているところです。

高校生のみなさんに議論いただくのは、第5章の部分になります。項目としては全部で7つありますが、時間が2時間程度であること、また、7項目のうちの「愛称・ロゴマークの取り扱いについて」、および「学生向けの開館記念事業について」は、まだ高校生のみなさんに議論いただくほど提示できる内容となっていないこともございまして、この2つは別に資料6の一番最後につけてあるアンケートにてアイデアを出していただくこととし、残りの5項目について7月31日に議論いただく予定としております。進め方についてもスライドに記載されておりますのでご覧いただければと思います。

続きまして資料7をご覧ください。不特定多数を対象としたニーズ調査の内容でございます。センター建設予定地の商店街で開催される8月3日、4日の納涼楽市において我々もブースを出店し、建設基本構想のパネル展示や、リサイクル本コーナーの設置を行いまして、気運醸成を図るとともに、来場者に対してニーズ調査としてヒアリングを行う予定

です。手法については、紙を配布して記入していただくアンケート方式ではなく、職員による聞き取り調査としまして、なるべく答えやすい環境を整え、いろいろな方に回答をいただきたいと考えております。ヒアリング実施時には、機能融合施設を目指していることをご存じない方も多いと思うので一番最後に丸い図が載っていますが建設基本構想記載の機能融合のイメージ図を見ていただきながら概要を簡潔に説明したのち、ヒアリングを行う予定です。

お聴きする内容はこのような表面にございます。5項目、回答者の方の属性をお聞かせいただくような内容となっております。こちらのニーズ調査については既に配布されております7月号の『市報くろべ』のインフォメーションコーナーにて告知しております。本のある風景が馴染んでいくよう今後もいろいろなタイミングで気運醸成を図っていきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。以上です。

○委員長このように進めていくということではよろしいでしょうか。

【追加の発言がないことを確認】

.....

閉会

○委員長最後になりますが、M委員、時間がない中ですが一言いただけますか。

○M委員大変丁寧に進めていただきありがとうございます。サードプレイスという議論を進めさせていただいております。事務局でいろいろ細かく準備をしているのですが、全部網羅できているかというところではない部分もあると思います。皆様の意見で埋めていただければと思います。今日はありがとうございました。また今後もよろしく願いいたします。

○委員長ありがとうございます。アドバイザーの伊東先生、いかがでしょうか。

○アドバイザーお疲れさまです。図書館の関係なのでちょっとだけお時間をいただいて気づいたことをだけ残していきたいと思っております。図書館関係なので図書館の方に命を入れていっていただきたいです。もちろんいま、命がないわけではないですけども。閲覧が項目の中に入らないですね。この会議は場所の話なので、図書館の機能の中では閲覧をどうするのか、席をどのくらい設けるのか、どうやって設けるのかがすごい重要なポイントだと思います。いままで議論されていたいろいろな意見にもかぶってきます。そこをこれから考える必要があると思っております。

それからアーカイブの関係がありデータベースとしてくくられていますけれども、図書館関係でデータベースというと新聞データベースや法律のデータベース等、ものすごく多くのデータベースが出ています。データベースはもちろん有料なのですが、それを図書館で無料で見せています。これは、ビジネス支援を図書館がやる際の重要な武器なんですね。それをどう入れていくのか、入れないのかが触れられていません。お金もかかるので入れない方がいいのかなとも思いましたが、一応伝えておきます。ビジネス支援を柱にあげるのであれば考えておかなければいけません。農業、漁業、観光とかもすべてビジネス支援です。それが全くなってビジネスマンのイメージしか湧いてきません。もっといろいろな生活が市の中にあるはず。私のとらえ方はビジネス支援は生活支援ですので、もう少し多様な切り口があってもいいのかなと思っております。

今しゃべらせていただいたことの対極にあるのが静かに本を読む図書館なんですよね。

今まで図書館でそういうものが得られると、例えば居場所ですよ、閲覧する場所が図書館にあると思われていなかった、それを提供しようと図書館は謳ってきています。ニーズという言葉が何度も出ましたし、ニーズは創り出せるものだという発言もありましたが、図書館はニーズを創り出せるんですね。

本屋や図書館を歩いていると自分が探している以外の本に出会うことがあります。

これは創り出すというよりは潜在的なニーズとぶつかる、出会う瞬間だと思っています。そのような新しいものとの出会いは、図書館に来ないと発見できないわけです。ということは、「図書館に来ると何かあるぞ」というのをニーズと呼んで来てもらう。来てもらうことで、最終的にまちの活性化になるのがえんぱーくの落としどころでした。いろいろな方たちがいろいろな目的を持って集まってくるからこそ、まちが生きてくる。そこでもって図書館づくりにつなげていったのがえんぱーくのつくり方でもありました。

今日いろいろなお話を聞いていて、いろいろな芽がまだまだたくさんあるんだな、楽しそうだなと思いつながらせていただきました。

○委員長ありがとうございました。やはり伊東先生の話は、専門家の目線で違うなと思いつながらせていただきました。いろいろなご縁や出会いをつくっていく場所でもあるのかなと思いました。これからも委員の皆様のご目線とご経験でご発言をいただければと思っております。では、議長の役目を終えさせていただきます。

○事務局長時間ご議論をいただきありがとうございました。今回ご意見をいただいた部分は次回までに取りまとめまして、皆様に事前にご説明にうかがいたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第3回（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会を閉会とさせていただきます。長時間にわたりありがとうございました。

閉 会 16時45分